



長期計画について

国際ロータリー第2510地区

2010-2011年度 ガバナー **佐々木正丞**

(札幌RC)

去る3月11日に東北の太平洋沿岸で国内観測史上最大のマグニチュード9.0の東北関東大震災が発生しました。被災された地域の皆様には心よりお見舞い申し上げます。また、当地区へも全国のロータリアンの皆様から心強い励ましのお見舞いや復興に向けてのご支援、ご厚情に対しまして深く感謝を申し上げます。次第でございます。

当地区としては現在、被災された地域への災害支援・復興に向けて対応策を幅広く検討するために地区内に「災害対策プロジェクト委員会」を立ち上げ、全奉仕部門共同による支援策を講じる事を考えておりますので、その際には皆様のご協力を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

さて、国際ロータリー(RI)は2002年度に「長期計画委員会」を発足させ、RIの活動目標や実践項目について審議を重ねて、2007年に「国際ロータリーの使命」「ビジョン」「中核となる価値観」等を定めました(『ロータリーの友』2007年10月号参照)。

その後、長期計画委員会は、ロータリアンへのアンケート調査や座談会等を実施し、2009年11月にその見直しを行って長期計画に修正が加えられました。

この新しい長期計画では、クラブや地区での長期的な視野に立った活力と柔軟性が重要であることが強調されており、①ロータリー財団の6つの重点分野を強調し、RIとロータリー財団の長期的な方向性の統一、②個々のクラブを重視し、クラブをサポートするためのRIの積極的な取り組み、③世界社会でのロータリーの奉仕活動の成果の紹介による組織のイメージづくり、などが取り上げられております。

また2007年にRI理事会が承認した7項目の優先項目は、新長期計画では3つの重点項目、すなわち①クラブのサポートと強化、②人道的奉仕の重点化と増加、③公共的イメージと認知度の向上、に変更されております(『ロータリーの友』2010年1月号参照)。

新しい計画・活動の焦点は、「将来へ向けてもっと大きな夢を持とう」ということでもあり、そのためには地区やクラブでの活性化と柔軟性、長期的視点に立った地域密着型の活動が一層肝要であります。さらにはロータリー財団の未来の夢計画やロータリーの管理運営の効率化と一体のもので、相互に連携しながら将来への活動を継続していかねばなりません。

今後私としても、この新しい長期計画に則って、クラブ・地区での管理運営上の改革(DLP、CLP導入促進)や、国内外での各種奉仕活動などを一層促進して参らねばと考えております。また活発で積極的な会員を生み出す組織づくりを目指して、例会出席を重視する文化から参加を重視する文化へと転換を図り、会員減少傾向に歯止めをかける意味でも広報活動にも力を注いでいかなければならないと覚悟も新たにしております。

さて、クラブ訪問では地域に密着した素晴らしい数々の施策展開を勉強させて頂き、その感想を『ロータリーの友』2011年2月号に投稿致しました。また数々のロータリアンからは今後の運営に関して厳しい真摯なご指摘も頂きました。

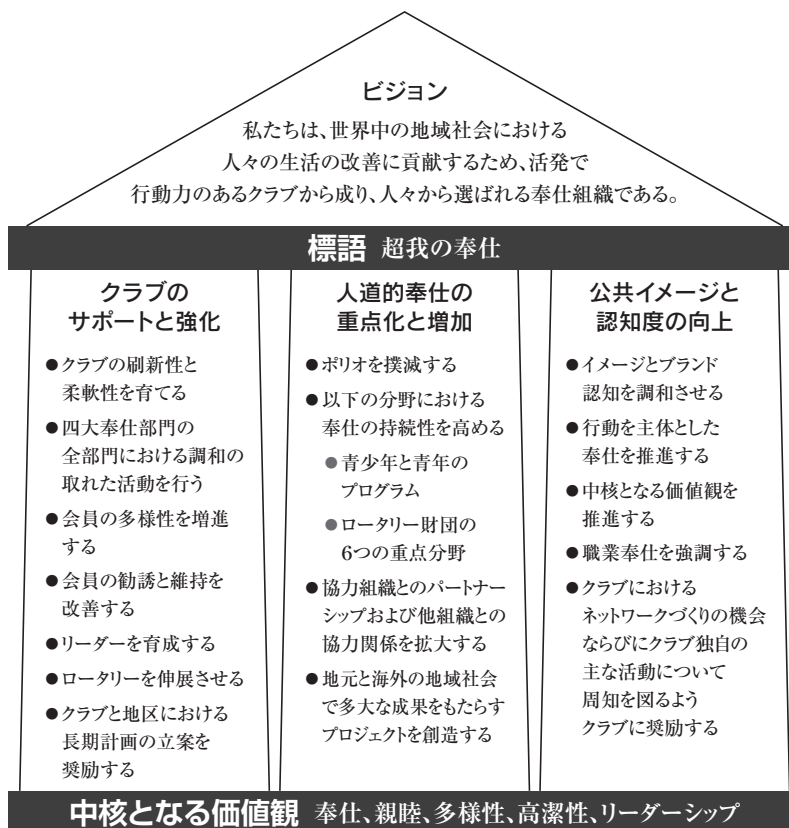
RIは、ロータリーとは「地域の人々の生活を改善したいという情熱を社会に役立つ活動に注いでいる献身的な人々の世界的ネットワーク」と言っております。今後各クラブが、新長期計画に基づいて地域に根ざした奉仕活動を進め、またクラブ活性化を目指すためにも、会員の意見を徹しつつ如何なるクラブ作りを目指すのか、如何なることを実践するのか、実践に当たっては如何なる組織運営で行うのかなどについて、クラブ管理運営の見直しを行うことが大切であります。

CLPと長期計画とは表裏一体のものであります。常に3年後のクラブのあり方を念頭において、その目標に向かって毎年計画を見直ししながら、クラブの運営を行っていくことがCLPであり、長期計画であります。

また各クラブが、クラブ自主性のもとで地域に密着した具体的な奉仕活動を行うことによって、地域の評価が高まり、クラブへの入会希望が高まって会員増強にもつながっていくものと信じております。

今後、2013年から本実施されるロータリー財団の夢計画によって、資金活用の枠組みが大幅に変更になって、地区での裁量範囲が広がりますので、我々がかつて寄付した財団からの資金を有効活用する意味においても、今回発行しました「社会奉仕活動レポート」を参考にして頂いて、社会奉仕活動のさらなる実践に力を注いで頂くことを期待しております。

長期計画



使命

私たちは、他者に奉仕し、高潔性を推進し、事業と専門職務および地域社会のリーダーの間の親睦を通じて世界理解、親善、平和を推進する。